

取組① 児童一人一人の個に応じた指導形態等の工夫

ア 加配教員と4・5年生の授業でのかかわり

(1) 算数科における習熟度別学習

(3学級を5名の教員で指導)

(2) 国語科におけるTTによる指導

複数教員での個別対応

イ 学習ボランティア

(地域人材・ICTサポーター)を活用した授業

地域のそばん教室の先生による授業



取組② 基礎的・基本的な知識・技能の定着

を目指した補充学習等の実施

ア 埼玉県学力・学習状況調査の検証

イ ●●計算道場

(1) 各単元の習熟度を勘案し対象児童を決定し、基礎的・基本的事項の定着を図る。

(2) 中・上位層への、単元テストにおけるケアレスミスのフォロー。

ウ 算数タイム

少人数担当、スクラム担当と各学年担当が相談し問題を作成。まとめとして「算数検定」を行い、平均8割以上の児童に『算数検定優秀賞』を授与。



少人数で個に応じた指導



「できた」実感と次への意欲を喚起

取組③ 学びの日常化・効率化を図る環境整備

ア 教室・廊下掲示



既習事項の振り返り



算数クイズ



学習室の学年や単元に応じたプリント集

イ 国語辞典の日常化



調べた語句に付箋

取組④ 教員の指導力向上を目指した学習指導法の研修

ア 授業研究会(校内研修)を中心とした指導法の検討

児童が本時のねらいを達成するためにどのような指導法が効果的なのかを研究した。特に今年度は、児童が自らの考え方を交流しあうことや、教師と児童の交流の中からより良い解決方法を見出す練り上げの工夫について、授業提案と協議を行っていった。

イ 外部指導者の指導

義務教育指導課の指導主事を招聘し、スクラム事業の概要説明や全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の活用についてご指導いただいた。

それを生かして、調査結果を分析し、効果的な支援方法について協議・実践した。